

## 東京 IPO 特別コラム

---

2017年10月20日 Vol.100

### 夢と希望の株式投資は日本を明るくする

本コラムもお陰様で今回第100号を迎えることができました。2年前の9月の配信以来読者の皆様に支えられ本日を迎えられることに心より感謝申し上げます。これからまた200号に向かって配信を続けさせて頂きますので皆様の引き続きのご愛読をお願い申し上げます。第100号の配信を記念し来週から新たな企画として新興市場に上場した企業情報を配信することになりましたので、これも合わせてご高覧賜りましたら幸いです。

さて、日経平均は2015年6月高値更新後も上昇を続け、ついに14日連続の上昇となってきました。株高基調を鮮明にして衆院選の投票日である22日を迎えることとなります。株高の後に来ると想定される波乱は今のところ無視した格好ですが、まずは行くところまで行こうという相場展開です。日本の株式市場は世界的な株高があつての上昇と言えますが日経平均と中小型株指数や個別銘柄とでは異なった動きが感じられます。日経平均の上昇に比べこのところマザーズ指数など中小型指数は比較的穏健な推移で個別に見ると高値から調整トレンドが進む銘柄も散見され、やや二極化の動きが見られます。

当然のごとく直近の主力銘柄を中心にした株高や物色の流れは企業収益の向上期待や技術革新、新成長企業の登場が背景になっていると考えられます。つまり日本の経済や産業、市民生活などの近未来を予見したものになっている可能性があります。各企業における生産性の向上がAI、IoT、車の自動運転などによって実現に至る過程が始まったとみれば、日経平均が新たなステージを迎えても当然です。企業にたまった内部留保に課税をしようなどという愚策が話題になっていましたが、効率化、生産性向上に向けた設備投資、IT投資などとして各企業から未来の成長に向けた施策が打ち出された場合のインパクトを想定すると夢と希望が湧いてきます。

すでに今年は64社がIPOを実現させているか近日中にIPOを予定していますが更に今後12月にかけて例年通りIPOがラッシュとなって参ります。この中にはフリマアプリのメルカリの大型IPOが噂に上っているほか佐川急便(SGホールディングスグループ)など話題の大型企業の上場申請がすでになされています。これら時価総額の大きな銘柄に対し、まだ時価総額は小さくても投資家に夢と希望を提供してくれそうなIPO銘柄が数多く登場するかと思います。

週明けは衆院選挙の結果が判明しますが、車載カメラ向け半導体開発企業のテックポイント・インク(6697・M)やIoT機器や装置の製造を手掛けるトランザス(6696・M)など調整中の直近IPO銘柄に加え、新政権の施策に沿った新成長企業の活躍にも大いに期待が寄せられます。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)